

## 2019春闘 会社の考え

本部は、3月8日、2109春闘、「会社の考え」について交渉を行いました。以下、報告します。

会社・定期昇給4号俸実施は行うものの、ベースアップについては難しい。

組合・西日本豪雨被害という大災害を受けても、黒字が見通せるのは社員の頑張りであり、社員の士気を下げないためにも、ベア実施を強く求める。

### (会社の考え)

まず、今年度振り返り、平成28年度、29年度と2年連続の鉄道事業黒字、連結経常利益100億円以上を達成し、これまで進めてきた経営改革の成果が着実に現れている。今年度は、平成23年度から始まった経営自立計画の最終年度として、グループの持続的な成長と、利益拡大を目指し諸施策に取り組んできたが、平成30年7月豪雨により山陽線が100日間に亘り寸断されるなど、立て続けに発生した大規模な自然災害の影響により100億円強の減収を余儀なくされた。

しかしながら、代行輸送や迂回輸送等を社員一丸となって取り組んだことや、山陽線開通後は、多くのお客様が鉄道輸送に戻ってきて頂いていることもあり、現時点、1月の対計画では、年間累計でコンテナ6,1億円、車扱が0,7億円、全体で6,9億円と、対計画0,6%上回っている状況である。

3月に入ってから、対計画を下回る日々が目立つなど、これまでの勢いが落ちているが、今年度を締めるという意味でも、残り3週間で鋭意に取り組み、また、16日のダイヤ改正を社員一丸となって実行するため、よろしく願いたい。

次に、来年度の事業計画であるが、現在、事業計画を策定している。総合物流企業として、関連事業の取り組みを盛り込み、鉄道事業黒字への復活、連結経常利益100億円を達成することが極めて重要であると考えている。また、社員の主体的な行動と成長を促し、生き生

---

きと働きがいを持って仕事ができる、人事制度の改正・多様な人材の積極的活用・健全経営の推進など、社員の活力向上・組織の活性化に結びつく施策を盛り込んでいく考えである。

これまでの交渉で、「公的年金の引き上げ」「10月に控える消費増税で社員の生活は一層厳しくなる」「西日本豪雨被害を受けても黒字を見通せるのは会社の体力がついた証拠であり、ベア原資はある」「新人事制度への移行を控え、モチベーションアップを図ること」「昨年はベア実施で、今年度ゼロでは意味がない」等々、ベアを実施するべきであると主張をされ、これらの主張を真摯に受け止めて社内議論をしてきた。

冒頭に申し上げた通り、グループの持続的な成長と一層の利益拡大を目指すためには、まず本業である鉄道事業は黒字でなければならない。また、関連事業においても利益を拡大し、経常利益を安定して出せる体質にしていかなければならない。

以上を考慮して、現時点での会社の考えは

「定期昇給4号俸実施は行うものの、ベースアップについては難しい」である。

組合・運輸収入（年度累計）対計画100,6%と好調である。この要因の一つに昨年10月からの運賃値上げが考えられるが、これは、本社、支社、支店、そして現場社員が、荷主に対し理解を得られるよう奮闘した結果である。また、今年度は西日本豪雨被害をはじめとした多くの自然災害に見舞われたが、通期の見通しでは黒字が確保出来るとなった。これは言うまでもなく社員の頑張りであると会社は認識しなければならない。社員は、JR貨物の収益が少しでも上がるよう、日々業務にあたっている。利益を出し結果も出ているのに、ベアを実施しないとなれば、士気は一気に下がり、会社全体が衰退していく。

4月から、新人事賃金制度に移行するが、果たして「努力をした社員が本当に報われる制度なのか」と、不審を招くことにもなる。多くの自然災害を受けても、通期見通し黒字確保へ導いた社員への利益配分として、ベア実施を強く要望し再考を求める。

会社・主張を受け止め、引き続き社内で議論していきたい。

組合・ベア実施の期待は大きい。誠意ある回答を求める。

以 上

---